

## 2020 年度活動報告 CJP 授業：日本文化 5－8

藤原 由紀子（関西学院大学 日本語教育センター）

### 1. クラス概要

本授業はレベル5以上の学習者を対象とした選択科目である。日本語で行われる講義を通して日本文化について理解すること、学んだ内容を主体的に調べることによって、さらに日本文化への理解を深めることを目標としている。今年度春学期の授業は1週間に1コマ、ZoomとLUNAを使った同時双方向型で行った。履修者は2名であった。

通常、本授業では京都フィールドトリップを実施している。これは日本文化の授業において、座学による知識だけではなく、日本にいる利点を生かし実際に自分の目で見、経験することを重視しているためである。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、フィールドトリップは実施しなかった。

### 2. 授業内容

前半は、読み物や映画を使って日本の言葉や風土、文化について知識を得、それをもとにディスカッションを行った。オンライン授業であること、また履修者が2名ともレベル5（本授業の履修が可能なレベルのうち一番下のレベル）の学生であったため、語彙や文の意味の確認など日本語の学習にやや比重を置いた内容とした。

後半は、自分が興味のあるテーマを設定し（広義の「日本文化」であれば何でも良い）調べてわかった内容をまとめて発表する活動を行った。発表準備のサポートやコメントーター役、またオンライン化によって減少した日本人学生との交流機会を増やす目的で、LA2名に参加してもらった。しかし、学期途中の採用であったためか、LAなしで教員の指導を受けつつ、ひとりで発表準備を進めたかったという声もあった。

### 3. 成果と今後の課題

これまで日本文化5-8では、学生が日本にいることの利点を生かし、身の回りの環境や人をいかに使って、学生の学びに繋げることができるかを考えてきた。そのため、今回のような状況は、授業の意義やデザインそのものに関わるもので、それにより実施できなかった活動や実施したものの本来とは意味付けが変わってしまった活動も多かった。今回の学生は状況を理解し、シラバスを確認し納得した上で履修してくれていたため、大きな問題はなかったが、今後本格的にオンライン授業として本科目を開講するのであれば、海外からの履修者に対して日本語教師がオンラインで行う「日本文化」の授業の意味を検討し、新しい形の授業を開発していく必要があると思う。